

◆授業のポイント◆

- ・ 習得すべき言語知識や言語技能の明確化・系統化のための見通し・振り返りシートの活用
- ・ 対象を比較・分析し、文章の内容と関連づけて考えさせる指導

国語科学習指導案

学 級 2年2組 (男子18名 女子17名 計35名)
場 所 2年2組教室 (2年棟2階)
授業者 教 諭 稲 留 佳 世

1 単元

根拠を示して考えを伝える 教材名「ホテルの里づくり」「意見文を書こう」「討論会をしよう」

2 単元について

本単元では、教科書教材「ホテルの里づくり」と「意見文を書こう」、「討論会をしよう」の学習を行う。まず、「ホテルの里づくり」の授業では、筆者の用いる例示の順序を考えさせ、文章の構成や展開の仕方の効果を理解させたい。また、例示の順序の効果だけでなく、データを用いることで筆者の意見に説得力が増すことを考えさせたい。次に「意見文を書こう」の授業では、1年時の「甲突川クリーン作戦」を振り返らせ、データを用いた説得力のある文章を書かせたい。さらに、「討論会をしよう」の授業では、自分の考えを発表する際、論理的な話の構成や展開を工夫させるとともに必要な資料や機器などを活用させ、聞くときには、どのような事実に基づき話がまとめられているのか、自分の考えと比較して聞くようにさせたい。

本学級の生徒は、学習に対して積極的に取り組む。教師の発問に対して進んで答えたり、グループ学習においては活発に互いの意見を交流しようとしたりする。一方で、話し合い活動において、自分の意見を述べる際、根拠は示すものの、意見との関連性が弱い生徒も少なくない。また、各種学力調査等では、述べられた内容について批判的に読んだり、適切な情報を集めて書いたり話したりすることに課題が残る。そこで、本単元での学習を通して、筆者の述べている内容についてより適切なデータを用いて読みを深めたり、適切な数値を取り入れ、それを根拠に自分の考えを書いたり話したりする言語活動に取り組ませることは、大切なことであると考え。また、これらの言語活動は、他教科の学習における「必要な情報を分類・整理して説明に生かすことができない」や「主観的な発表に終始し根拠を示して考えを述べることができない」などの課題を解決するうえで大変意義のあることだと言える。

指導に当たっては、「ホテルの里づくり」において、筆者の述べている内容の一部を取り上げ、そこに用いられている語句と比較させながら適切なデータを選択させることで、データと文章を関連づけながら読ませたい。さらに、選択したデータを分析・考察し、筆者の述べている内容を補わせることでより客観的な根拠の示し方についての理解を深めさせたい。その際、筆者の構成や展開の工夫の一つとして例示の順序による効果を理解させたい。次に、「意見文を書こう」では、自分の主張に必要なデータを収集させ、それらを主張の根拠として生かさせながら自分の考えを書かせたい。さらに、「討論会をしよう」では、自分の立場や主張をデータと関連させて述べることでより説得力をもたせて話させたり、話し手の主張と根拠の関連について聞いたりさせたい。なお、単元を通して「見通し・振り返りシート」を用い、学習を通して身に付ける力を確認させることで見通しをもたせ、かつ、学習後に自己の変容を振り返らせることで、より着実な知識・技能の習得を図りたい。

3 単元の目標

- (1) 文章や意見に関連したデータを使って、自分の考えを伝えようとしている。
- (2) データを効果的に活用して自分の意見を話したり、自分の考えと比較して聞いたりすることができる。

- (3) 自分の考えに適したデータを用いて、説得力のある文章を書くことができる。
- (4) 筆者の述べた内容について、適切なデータを選択し、それを根拠として自分の考えをまとめることができる。

4 単元の指導計画（全13時間）

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習目標と学習計画を確認させ、学習への見通しをもたせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 単元の学習目標と学習計画を確認する。 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 	0.3	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標と学習計画を提示するとともに、学習の進め方を明確にさせる。 	
展	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字と語句を確認させる。 「ホテルの里づくり」の範読を聞かせ、概要を理解させる。 初発の感想を書かせ、感想交流をさせる。 各段落の役割についてとらえさせる。 筆者の具体例の提示の仕方と効果をとらえさせる。 筆者の述べている内容とデータとの関連を考えながら、述べている内容の根拠をまとめさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 新出漢字の読みと語句の意味を確認する。 「ホテルの里づくり」の範読を聞く。 初発の感想を書き交流する。 全文を5つに分け見出しをつけ、段落の関係を理解する。 名古屋と横須賀の取組の違いを比べて、具体例の提示の仕方による効果を理解する。 意味段落4における筆者の述べている内容と照らし合わせながらデータを読み取り、述べている内容の根拠をデータから示してまとめる。 	0.7 1 1 1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 印象に残ったり、疑問に思ったりしたところに線を引かせる。 「環境保護」と「環境をつくる」との違いを確認させる。 話題の中心になる「もの」や「こと」を取り出し見出しをつけ、段落相互の関係を考える。 文章中の表現に注意し、名古屋と横須賀との事例の違いを考えさせる。 事例の提示する順序性について考えをもたせる。 筆者の述べている内容とデータとの関連をとらえて、根拠となるデータや、その中の語句や数値を用いてまとめさせる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見が効果的に伝わるように、構成を工夫したり、データや数値を用いたりして自分の考えを書かせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1年時の「甲突川クリーン作戦」での学習内容をふまえ、環境問題について、自分の考えをまとめる。 自分の伝えたい事実や意見を明確にして、文章の構成を工夫するとともに、効果的に伝わるように説明や具体例を加えてまとめる。 書いた文章を読み直し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して、効果的に伝わる文章にする。 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や、説明や具体例の述べ方などについて意見を述べる。 	0.5 1.5 1 1	<ul style="list-style-type: none"> 体験や学習から材料を集め、自分の考えをまとめさせる。 事実や意見を明確にして文章構成を考えさせ、効果的に伝わるように説明や具体例を加えさせる。 伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方になっているか、段落相互の関係は適切か検討させる。 文章の構成や材料の使い方などについて交流させる。 	
開	<ul style="list-style-type: none"> 話の中心的部分に注意し、構成や展開を考えて話させる。 話の構成や展開に注意し、自分の考えと比較させて聞かせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 新聞などから話題を決め、「住むなら都会よりも田舎がよい」という討論のための材料を集め整理する。 論理的で相手に伝わりやすい話の構成や展開を工夫し、データや表などの資料を取り入れて話す準備をする。 討論を通して話の要点や根拠となる事実をとらえ、自分の考えと比較し、賛成または反対の判断をする。 	1 2 1	<ul style="list-style-type: none"> 新聞、テレビ、インターネットなどから、情報を収集させる。 聞き手の反論や意見を予想して、構成や展開を工夫させる。 聞き取りメモを使って話を聞かせ、疑問に思うことを質問させる。 	
	終末	<ul style="list-style-type: none"> 学習を通して、分かったことや、自分ができるようになったことを、対話を通して自己評価させる。 本単元のまとめをさせ、次の学習への意欲をもたせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 対話による、相互評価を行う。 本単元のまとめをし、次への意欲をもつ。 	0.8 0.2	<ul style="list-style-type: none"> 見通し・振り返りシートに単元を通してできるようになったことをまとめさせ、グループで相互に質問しながらできるようになったことを述べさせる。

5 評価規準

(1) 「読むこと」

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
【言語活動例】 イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる言語活動を通じた指導		
<ul style="list-style-type: none"> 文章とデータとの関連を考えて、説明文を読み、自分の考えを述べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「保護活動」と「環境をつくる」という意味の違いに注意して読んでいる。(ア) 横須賀の事例を述べた意味段落4が、筆者の論の展開の中で果たしている役割を考えている。(イ) 意味段落4で述べている内容とデータとを関連づけて考え、それに対する自分の考えを根拠を示してまとめている。(ウ) 筆者の考え方について、知識や体験と関連づけて、自分の考えと対比している。(エ) 筆者が述べている内容や考え方について多様な方法で情報を得て、自分の考えをまとめている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的な概念を表す語句等について理解し、語彙を豊かにしている。(イの(1)) 第1学年までに学習した漢字に加え、新出漢字を読んでいる。(ウの(7))

(2) 「書くこと」(略) (3) 「話すこと・聞くこと」(略)

6 本時の実際 (4 / 13)

(1) 教材 「ホタルの里づくり」

(2) 学習目標 筆者が述べていることをデータと関連づけて考え、それに対する自分の考えを根拠を示してまとめよう。

(3) 目標行動

- ① 複数のデータから適したものを選択し、筆者の述べている内容とデータとの関連をとらえることができる。
- ② データとの関連をとらえて、筆者の述べている内容について自分の考えをもつことができる。

＜目標行動が具現化された生徒の姿＞

①, ②を踏まえて、自分の考えを例えば次のようにまとめることができる

筆者は「そして十年後、川にはホタルが戻ってきたのです。」と述べているが、表2を用いることで、そのことをより説得力をもって伝えることができる。

なぜなら、水辺環境を守る活動を開始して、ふ化幼虫を放流した1985年から10年後の1995年にホタルが自然発生していることが分かるからである。

私は、この十年間もの取組があっはじめてホタルが住めるようになったことから、「環境をつくる」ためには、人間の継続した努力が大切であると実感した。

(4) 授業設計の工夫

① 習得すべき知識や技能の明確化・系統化のための見通し・振り返りシートの活用

本時の授業設計に当たり、習得すべき知識や技能の明確化・系統化のために、各活動に応じた次のような見通し・振り返りシートを活用した。このことにより、生徒自身が習得すべき知識や技能を自覚し、より習得が図られると考えた。また、自己評価の欄には何ができたようになったのかを明確にして記入させるようにした。

領域	達成目標	自己評価
読むこと 「ホタルの里づくり」	<ul style="list-style-type: none"> 「保護活動」と「環境をつくる」という語の違いをとらえることができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 横須賀の事例を述べた意味段落4が、筆者の論の展開の中で果たす効果をとらえることができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 意味段落4で述べている内容と、データとを関連づけて、それに対する自分の考えを根拠を示してまとめることができる。 	

② 思考力・判断力・表現力等を高める指導の工夫

思考力・判断力・表現力等を高めるための工夫として、まず、述べている内容の根拠となるデータを、比較・分析して適切な理由を考えさせるようにした。また、選択した表2のどこが筆者の述べている内容と関連があるのかも考えさせるようにした。その際、関連をとらえる着眼点としてデータの見出しや項目にある語句との関連や、データに示された数値や語句との関連に着目して読み取らせたい。

(5) 展開

過程	主な学習活動	時間形態	○指導上の留意点◎評価※授業のポイントについて
導入	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。	3 一斉	○ 文章の構成や展開を振り返る。
	筆者が述べていることをデータと関連づけて考え、それに対する自分の考えを根拠を示してまとめよう。	2 一斉	○ 学習目標と学習の進め方を提示し、学習への意欲をもたせる。
展開	3 述べられている内容を裏付けるためのデータの見方と、まとめ方を学ぶ。	5 一斉	○ 例文を示し、述べられている文の根拠となるところを、データから挙げさせるとともに、考えのまとめ方を確認する。 〈関連をとらえる着眼点〉 ・データの見出しや項目にある語句との関連 ・データに示された数値や語句との関連
	4 データの語句や数値から、筆者の述べている内容と関連のあるものを選ぶ。	3 個	○ それぞれのデータと関連していると思う部分の数値や語句を囲ませる。
		5 班	○ 「個人」→「班」の順で確認させる。
		5 一斉	※ 表1と表2の違いについて、表2の次の語句に注目させる。 〈表2〉 ・「1985」年に幼虫の「放流開始」 ・「1995」年に「自然発生」 ・「1995」年に、「放流した幼虫の数」が「0」であるのに対して、「飛んだホタルの数」は「10」である。
		5 一斉	◎ 「そして十年後、川にホタルは戻ってきたのです。」という文と、表1「水質階級と指標生物」や表2「横須賀ホタルの会の取組」を比較し、筆者の述べている内容の根拠となるデータを決定できたか。
	5 選んだデータをもとに考察する。	10 班	○ 考察できない生徒には既習の教材を想起させることでまとめさせる。
	6 述べている内容の根拠となるところをモデル文にならってまとめる。	5 個	○ 電子黒板等を利用して、まとめる際のポイントを確認できるようにしておく。 ◎ 筆者の述べている内容の根拠となるところを表2から用いて、モデル文にならって自分の考えをまとめることができたか。
7 代表の生徒が発表する。	5 一斉	○ 「おおむね満足」→「十分満足」の順に指名して発表させる。必要に応じて教師の模範例も提示する。	
終末	8 本時のまとめを聞き、見通し・振り返りシートを記入する。	5 個	※ 見通し・振り返りシートに記入させて学習を振り返らせ、身につけたことを確認させる。
	9 次時への意欲をもつ。	2 一斉	○ 次時の学習内容を予告する。